

発行：2008年7月25日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直 彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>



「地球環境基金」

平成20年度「地球環境基金」

助成金交付決定（継続2年目）

本年度事業最大の助っ人「今井記念海外協力基金」の助成に

より本年度事業が円滑に実施されることとなり現地の要望に添うことができることとなりました。現地の子ども達は、早くトイレと手洗い場が使えるよう心待ちにしています。現地の皆さんに代わりまして心より感謝とお礼を申し上げます。（平成20年度事業実施にあたり、かねてより「今井記念海外協力基金」にお願いをしていたところ本事業への協力と、ご理解をいただき平成20年3月19日助成金交付の決定通知をいただきました。）

本事業は、特に開発途上国のトイレに起因する伝染病等で子供を中心として多くの死者が出ていることや燃料消費・農業生産・安全な飲料水問題など、生活に欠かせない自然サイクルの中で「発生源で元を絶つ」一連の循環をモデル化しシステムとして開発するものです。（エコトイレ「人糞」+メタンガス+野菜栽培+堆肥+水のリサイクル=無放流）循環型社会の形成に於いて不可欠な事業でもあります。

平成19年度から独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金助成による継続実施で現地では、大変好評で村の人たちの手で完成させた自信と誇りは、他の村への波及効果と環境衛生に対する意識・知識の向上に繋がっており、それぞれの責任のもとに使用することで清掃も行き届き、きれいに管理され協働の成果が現れています。（パヤオレポートポート 2007-04 参照）

趣旨・目的

タイ国の山岳少数民族の村において、便所の尿尿を嫌気処理し、無放流、メンテナンスフリーのエコトイレシステムを設置すると共に、嫌気処理の過程で発生したメタンガスを家庭燃料として使用する一連のシステムを開発する。

地域の衛生環境の改善と農業への利用及び家庭燃料としての利用を中心に設置指導を兼ねたシステムを実践する。普及していない村や従来の便所に起因する回虫や伝染病等不衛生による病気の回避に加えて河川・湖沼の富栄養化の原因である窒素・燐を畑の作物に吸収させ肥料として利用し残留水は、リサイクルにより多目的利用をすると共に自然循環により発生源で自己完結させる。

地域の気候風土に沿った自然素材を使用し、土着菌の特質を最大限に生かした生物浄化と地域の土壌に生息する微生物による分解作用を利用する。

この処理液による自然農法の提唱と地域住民の生活の向上に併せて広範な地域の衛生環境保全及び、トイレからのガスにより家庭用燃料の確保を図り薪の使用を減少させることにより地域の森林を守り、エネルギーの

節約と地球環境保全に寄与する。

タイ政府が定住化を図るため作られた自立発展途上の村落。衛生環境も極めて悪く、便所は、地下浸透はむろん垂れ流しの集落が大半である。雨期になると地層、土質の影響もあり地下浸透が緩慢となって糞尿が地上に溢れ、地下水を汚染させると共に、これにより寄生虫・はえ・蚊等が異常発生し病原菌の繁殖を促し食生活、健康・衛生管理に悪影響をもたらして付近の衛生環境が損なわれ極めて劣悪な状況となっている。

加えて、タイ政府は、森林伐採を禁止したため生活様家庭燃料は、村で管理する小規模の山林のみで薪も配給制度となっているため、冬期暖房や、煮炊きは制約され生活に支障を来している。

便所も普及したとしても従来の方法では、環境悪化が進行するだけで地域環境の改善や環境保全にはならず、問題解決にはならない。開発途上国といわれている地域に限らず、地球環境の保全は急務であり、森林の減少、生活排水による河川、湖沼の汚染は近年著しい。一刻も早く、地域ごとに「発生源で元を絶つ」ことで解決しなければ、自然環境は破壊され修復不可能なる。

このシステムは、人の生活循環の中で無駄なく自然の作用を最大限に活用したシステムであり、電気・動力など人工のエネルギーを必要としない。食べるだけでもままならない山岳民族にとって設置も安価で畑としての利用や地下水の安全性・病原菌からの回避、加えて燃料確保ができる。

また、維持管理費もほとんど不要で地域環境保全の持続できる最適のシステムであると共に循環型社会形成のモデルとなり普及の広がりにより地球温暖化防止の一躍を担う。

平成20年度 事業内容

現地調査：設置場所については、活動先であるモン族の村の幼稚園と学校に通えない子ども達のため校内にある寮の2カ所を候補として調査しました、いずれも昨年度末に要望のあった地点です。

(1) クングムラン村保育園及び村の共同トイレ

役場から30kmの山裾の定住地のクングムラン村、人口1,300人の村。

昨年村長さんから文書で要請のあったクングムラン村の保育園(1,300人のモン族の村)保育園(園児45人)は、室内にトイレが有り便槽(直下密封式)は、満タン状態で地下浸透が緩慢で、園内にはいると尿のにおいが鼻をつく状況でとてもおれない環境です。そんな中で給食を食べ、お昼寝をし、7時間劣悪の衛生環境の中で保育生活を余儀なくされていますが、仕方なく我慢をして過ごし、早くできるのを待っています。

(2) クンクアン中・高等学校学生寮

役場から20kmの地点で、クンクワン地区の中・高校の学生寮(寮生40名)

寮生のほとんどは、山の村の子ども達です。校長先生からの緊急要請があり候補として検討しました。(校長先生との協議の際、とても良いシステムで東南アジアにふさわしく優れたものと評価され、完成実証後は、学校関係を通じて政府に普及を働きかけると、話していました。)学生寮は、施設が満員で入寮できないため竹の小屋を造って男子10人が、タコ部屋で時給自足の生活をしながら、勉強をしています。

この子達のトイレがなく、女子寮のトイレを使っていますが、不自由しているに加え、既設のトイレも定員オーバーで糞尿が溢れ、くみ取りも追いつかず、劣悪の状況です。早期の完成が待たれます。

以上の2カ所について緊急対応の必要から関係者と協議の後、着手しました。

また、関係者との協議も兼ね第1回セミナーを開催しました。(自然循環式システムに絶賛の声が上がり、昨年の実績から衛生的で安全は、もとより作物の収穫やガスの使用に大きな期待がかけられています。)

本事業の実施経過報告等は、逐次パヤオレポートでお伝えします。(ホームページ掲載)

—活動募金にご協力をお願いします。—

2008.7.25 saeki